

新規

## 高齢者後付け急発進等抑制装置

### 設置補助事業

市民生活部 市民安全課

1 予算額 15,600千円

#### 2 目的及び効果

高齢運転者による交通事故が増加傾向にあります。中でも、アクセルとブレーキの踏み間違いに起因する交通事故が後を絶たない状況です。

高齢者が運転する車両に後付けの急発進等抑制装置の設置について補助することで、高齢運転者への同装置設置を促進し、高齢運転者の交通安全対策を推進します。

#### 3 事業概要

65歳以上の市民が運転する車両に後付けの急発進等抑制装置を取り付けることに対して、費用の一部を助成します。

【補助対象者】65歳以上の市民

【補助額】対象経費の4/5

上限額：障害物検知機能付き 32,000円

障害物検知機能なし 16,000円

【補助対象物品】国の認定を受けた装置(取付工賃含む)



拡充

多文化共生推進事業

市民生活部 多文化共生推進室

1 予算額 35,173千円

2 目的及び効果 外国籍市民の生活環境の整備、利便性の向上、地域における共生を実現し、外国人と日本人相互の満足度を高めます。

3 事業概要

(1)多文化共生推進プラン改定

令和元年度に引き続き、平成23年3月に策定した小牧市多文化共生推進プランを改定します。令和2年度は、プランの印刷、概要版の作成等を行います。

(2)新規 ベトナム語版生活情報誌作成

小牧市に居住する外国人市民の国籍別構成が変化し、特にベトナム国籍の方が増加しているため、外国人向け生活情報誌のベトナム語版を作成し、市内公共施設等で配布します。

(3)小牧市国際交流協会補助金

小牧市国際交流協会が実施する日本語教室の講師が不足しているため、新たな講師を継続して養成し、日本語教室のクラス編成を見直します。



## 新規 救急隊用多言語音声翻訳アプリ

### 導入事業

消防本部 消防総務課

- 1 予算額 682千円
- 2 目的及び効果 救急現場において日本語での会話が困難な外国人の傷病者及びその関係者に対して救急隊用多言語音声翻訳アプリを活用し、円滑に意思の疎通を図り、迅速に救急搬送します。

### 3 事業概要

常時運用している5台の救急自動車にタブレット型端末を配備し、国立研究開発法人情報通信研究機構と総務省消防庁が共同開発した救急隊用多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」をダウンロードし、救急現場において日本語を話すことができない外国人の傷病者及びその関係者に対して母国語による音声と端末画面の文字によりコミュニケーションを図ります。

「救急ボイストラ」には、救急現場で使用頻度が高い会話の内容が46の「定型文」として登録されており、定型文に対応している言語は15種類あります。



## 新エネルギー導入助成事業

市民生活部 環境対策課

1 予算額 25,500千円

2 目的及び効果 省エネルギー型機器・再生可能エネルギーを導入する市民に対し設置費用の一部を補助することで、家庭の効率的なエネルギー利用を促進し、地球温暖化防止及び低炭素社会の形成と市民意識の高揚を図ります。

### 3 事業概要

○家庭用燃料電池システム補助金

【補助額】1件あたり10万円

ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と反応させ発電します。  
また、発電時の排熱も利用します。

○家庭用エネルギー管理システム(HEMS)補助金

【補助額】1件あたり1万円

電力使用量を実測し、エネルギーを「見える化」します。

○定置用リチウムイオン蓄電システム(蓄電池)補助金

【補助額】1件あたり10万円

電力を繰り返し蓄え、必要に応じて使用できます。

○一体的導入補助金

【補助額】1件あたり上限23万円

一体的導入とは、HEMS、蓄電池、住宅用太陽光発電システムを一体的に導入するものです。



## 拡充 ごみ分別簡素化・資源化促進事業

市民生活部 ごみ政策課

1 予算額 109,165千円

### 2 目的及び効果

市民の利便性を高めながら、ごみの減量化・資源化を促進することにより、資源循環型社会の構築を目指します。

### 3 事業概要

#### ① 剪定枝類の資源化

資源回収ステーション及び地域のごみ集積場に排出(平成30年10月～)された剪定枝類を資源化します。

#### ② 「雑がみ」の資源化

未だ「燃やすごみ」として排出されることが多い「雑がみ」については、金属やビニールがついたものや、禁忌品も「雑がみ」として排出できるものとし、週1回収(平成31年4月～)することで、ごみの減量化・資源化を図ります。

#### ③ 区のごみ集積場での古紙・古布類の集団回収の実施

各区のごみ集積場で古紙・古布類の集団回収(平成31年4月～)を実施し、収集費用の削減及び排出意識の向上を図ります。

#### ④ **新規** スプレー缶類の排出方法の見直し

穴開けによる事故の発生を防止するため、令和2年度からスプレー缶類の穴開けを不要とする。

